

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子力安全検討会
第 17 回 議事録

日 時： 2016 年 9 月 6 日（火）09：30～11：30

場 所： 原子力安全推進協会 13F D 会議室

出席者：敬称略

主査：宮野(法大)

幹事：河井（原安進）、成宮（関電）

委員：有田（MHI）、飯倉（東芝）、関村（標準委員長，東大）、出町（東大）、中村^武（JAEA）、
村松（東京都市大）、守屋（日立 GE）

委員候補：大塚（東電）

オブザーバ：中越（原子力学会）、平川（原安進）

配布資料：

- ・ 資料 17-1：第 16 回原子力安全検討会議事録（案）
- ・ 資料 17-2：人事について
- ・ 資料 17-3-1：第 38 回原子力安全分科会議事録
- ・ 資料 17-3-2：第 39 回原子力安全分科会議事録（案）
- ・ 資料 17-4-1：リスク活用分科会の活動状況
- ・ 資料 17-4-2：第 16 回リスク活用分科会議事メモ
- ・ 資料 17-5：SS 分科会の活動状況
- ・ 資料 17-6：地震安全基本原則分科会の活動状況
- ・ 資料 17-7：学協会規格体系化報告書の提言への対応について（進捗状況報告）

参考資料：

- ・ 参考 17-1：委員名簿

議事及び主な質疑応答

(1) 前回議事録の確認

成宮幹事より資料 17-1 の紹介があり、承認された。

(2) 人事について

宮野主査より資料 17-2 を用いて、人事について説明があった。米山委員の退任が報告され、大塚委員候補と高田孝委員候補の選任が承認された。

(3) 原子力安全分科会

河井幹事より、資料 17-3-1 及び 17-3-2 を用いて、原子力安全分科会の活動状況の報告があった。中間報告の予定であったが分科会において異議がとなえられその対応のために時間がかかることから、標準委員会も含めて中間報告は次回にしたい、との提案があり、了

解された。異議は、炉と再処理施設の安全機能の展開の仕方にかかるものであった。主な質疑は以下のとおり。

Q：言葉が理解されていないのではないか？1次閉じ込め、2次閉じ込め、というのが判らない。

A：炉で言えば1次閉じ込めは燃料被覆管、2次はRCS。

C：言葉の定義というよりも、想定条件が異なる。運転状態と事故状態では設備の機能が異なるはず。そういうところを考慮して比較すべきだ。

C：参1などの表では両施設の言葉や機能を無理に合わせようとしている。説明は詳しくしてほしい。

C：再処理の基本安全機能では炉では労災に入れている作業員の被ばく防護を入れている。これはIAEAで記載があったことになっている。再処理ではグローブボックス等で作業員が日常的に放射線源に接触することを勘案しているものとする。

Q：IAEAの再処理施設にかかる考え方がおかしいと思うのなら、考え直せばよい。

C：原子炉安全の基本安全機能には作業員は入っていないとの理解。一方、事故時の安全確保のための操作をする作業員がその操作をできなくならないようにすることは考慮していることも理解。

C：逆に再処理の検討から炉の安全の考え方へ反映することも考えること。六ヶ所再処理施設の作業被ばくは炉に比して桁違いに小さい。そういうことを踏まえて、考えて欲しい。

C：平易で判り易い言葉に直すこと。

C：非密封で α 核種を考えないといけない再処理施設の特徴を考慮すべき。

C：再処理施設では発生防止系が中心で緩和系があまりない。

C：炉に合わせて再処理の安全の考え方を議論するのではなく、両方の共通の安全の考え方を構築することが狙いのはず。

C：「重大事故」とは何を指すのか？「ソースターム」の特徴は両者でどう異なるのか？そういう観点で議論してほしい。2つの施設の比較ではなく、双方の特徴を基に安全の統一的な考えを展開すること。新設炉、新設計の施設など将来に向けて新しい考え方を創るべきだ。

C：この活動は将来の再処理施設を左右する大変、重要な議論になる。

(3) リスク活用分科会

村松委員（分科会主査）より資料17-4-1と17-4-2の説明があり、安全目標の議論をしている紹介があった。主な質疑は以下のとおり。

Q：安全目標を学会として議論する場が要るのではないかと？

A：安全部会では秋の大会の企画セッションで取り上げている。規制委員会が安全目標を検討出来ていない理由は、安全目標にはたとえば防災まで含むような広い議論が必要なことだと思う。将来の新設炉、炉以外の原子力施設など広く考えて検討しないと行けない。

C：様々なところで議論し検討することが大事。

- C：たとえば、防災は自治体も含めて議論するが、一つの組織だけが考えれば良いのではなく、誰が何のためにどうやって考えるのかが重要なこと。
- C：学会として広く議論してもらい、学術会議に出せるくらいのものでほしい。
- C：設計を超える領域を **2,3** に区分し考えれば防災要否の目安にも使える。
- C：英国では規制のための安全目標、と明確にしている。安全目標の位置づけを明確にして議論すべき。
- C：学会としてロジックを考えること。
- C：安全部会と安全検討会のジョイントのワークショップを行って欲しい。

(4) SS 分科会

出町委員（分科会主査）より、資料 **17-5** に基づき活動の紹介があった。**ATOMO Σ** への解説記事は投稿済み。主な質疑は以下のとおり。

- C：長崎大の鈴木達治郎先生は良いコメントをもらえるだろうから、出席が難しければ出向いて意見を伺うとよい。
- Q：検査制度見直しの日本版 **ROP** でセキュリティの指標も考えないといけないと思うが？規制委の田中^知委員はどういう考えを持っているのか。
- A：扱いについて確認していないので判らないが、セキュリティの指標が要ると思う。ただ公開は出来ないだろう。

(5) 地震安全基本原則分科会

成宮幹事より、資料 **17-6** に基づき活動の紹介があった。主な質疑は以下のとおり。

- Q：設計を超える地震に関して考えると、サイトだけの問題ではなく周辺自治体なども入れて考えないといけない。今のメンバーでは検討対象が広くなりすぎて無理ではないか？要件にしても大変な作業になる。
- A：確かに範囲は広くなると考えている。そのくらいの議論がないと実務に役立つものにはならないと考える。今まで基本原則などを作ったが、論理としては良くて実際の活動になかなか結びつけるのが難しい。そこで技術要件を書くことで抽象的論理と実務を結びつけようと考えたが、あまり詳しい要件は書けないかもしれない。
- C：この検討は、電気協会、機械学会も含む学協会規格類協議会の体制の見直しにも繋がること。電気協会が産業界に偏っていることの批判もあるが規格に携わる学協会組織の分担などの検討に役立つ。
- C：地震ハザードを検討する **WG3** が重要だと思う。

(6) 学協会規格体系化報告書の提言への対応状況

河井幹事より、資料 **17-7** に基づき規格情報閲覧ページの試行を開始したことの紹介があった。

(7) 今後の予定

次回の安全検討会は、11月29日（火） 09:30～12:30 に開催することとなった。

以上